お客様の声 2

山口重工業株式会社

福岡県と栃木県に合わせて4ヶ所の工場拠点と福岡、東京、京都にオフィス拠点を持ち、各県500tの月産能力を有する山口重工業株式会社。
2022年12月にS/F生産計画（以下、生産計画）をいち早く導入していただきました。
同社の山口和也専務取締役と生産管理部の野澤滉平課長にお話を伺いました。

S/F生産計画 初インタビュー

全体工程や、日ごとの目標台数に対する達成状況の共有ができるようになりました。

今回、生産計画の導入にいたった経緯を教えてください。
山口専務：もともとREAL4は23台導入済みでしたが、各工場の生産状況の管理にずっと課題を感じていました。以前の管理の仕方は手作業で、日々製作完了した本数を紙の表に書き込む方法。計画と実績は比較していたものの、蓄積したデータを次の受注に生かすことまではできていなかったのです。そんな折、このソフトの概要を聞いて、「これだ！」と。頭の中にあったイメージとぴたりと重なったんです。REAL4は東京や京都オフィスにも導入しているので、そこをつなげるソフトとして生産拠点に生産計画を導入すれば、遠方のオフィスからも状況把握ができる。これは非常にいいなと感じました。
ご購入いただいて1年、使用状況はいかがでしょうか？
山口専務：この1年をかけて社内へのシステム導入を検証、準備してきました。その精度が高まってきたので、徐々に客先にもデータを出し始めたところです。計画を提出するタイミングだけでなく、製品検査の段階でもデータを表示しながら進捗を伝えています。
社内ではどのように活用されていますか。
野澤課長：現場にはタブレットを3台入れて入力をお願いし、生産管理部から朝礼で前日のセクションごとの生産台数を発表しています。全体工程や日ごとの目標台数に対する達成状況の共有ができるようになりました。以前は紙の表を見ながら「この物件のこれは何台終わりましたか」と口頭で確認していたので、データをもとに実数で話せるようになったのは大きな変化です。
山口専務：日々進捗を把握することで、何か起きた際にも後工程の対処がスピーディーにできます。実績が目標台数より少なければ原因がどこにあるかの分析も早く進みますし、モノづくりでは必須のPDCAが回せます。見えづらかった工程が可視化できたことで、生産管理部と製造部との認識のすり合わせもスムーズになりました。

左から野澤滉平課長と山口和也専務取締役。

工場でもモニターで進捗を表示されていますね。
山口専務：当社は新卒採用者の割合が高く、平均年齢も28歳と若い。長年の経験をベースに進捗をイメージすることが難しいと思うんです。だからまさに百聞は一見に如かずで。以前は私が製造部に「納期に間に合わなくなる」と言ってもいまいち実感が持てずにいたのですが、モニター設置後は意識が高くなったと感じます。常時進捗が映し出されることで、「まだ全体の3分の1しか進んでないのか」と一目瞭然ですから。今では、自発的に気になる箇所を3Dで確認する姿も見られます。

工場のモニターで進捗をチェック。

生産管理部としてはどんなメリットを感じていますか。
野澤課長：やはりREAL4とのデータ連携によるメリットが一番大きいですね。これまで工程計画は、それを専門にするメンバーが頭を抱えながら1～2週間かけて行うようなもの、という認識でしたが、このソフトはREAL4のデータを入れるだけで、新入社員でも1～2時間もあればある程度のものを作ることができます。また生産管理部は工場経験のない人がほとんど。1台作るのに必要な作業や所要時間、実績までデータ上で把握できるのは助かります。
何割くらいの方が生産計画を使われているのですか？
野澤課長：メインで使っているのは今のところ私だけですが、ある程度社内で運用していく準備が整ったので、社員にも少しずつレクチャーを進めているところです。2024年中には、REAL4の入力がある程度進んだ段階で各案件の担当者が生産計画にデータ入力しています。
山口専務：生産計画を限られた数人に任せるという方法もあるとは思いますが、当社では誰でも扱えるようにして、細かな調整は専門部隊で精査する形を目指しています。
今後の導入効果をどうお考えですか。
山口専務：以前は概算のデータに基づいて「あともう何トン受注可能か」と感覚で受注していました。今はセクションごとに「いつどこで何が終わる」というのが数値化されているので、今後、より精度の高い生産計画が可能になると期待しています。納期の相談や受注の可否も他案件を加味した回答が可能になるでしょう。工数が削減できるだとか、増員が早めに計画できるとか、生産計画導入の効果はここからま

福岡工場、関東・東北工場のほか、福岡、東京、京都にオフィスを置く。
※2024年度より栃木宇都宮工場から名称変更

たさらに見えてくると思います。おそらくあと5年もすればこのソフトが必須の存在になっているのではないでしょうか。ありがとうございます！今後の展望もお聞かせください。
山口専務：「お客さまの言うことは絶対。残業してでも何とかする」というのがこれまでの業界の常識でしたが、今からの時代そういうわけにはいきません。今後は中間報告を通して進行遅れなど正の表現だけではなく、負の要素も速報で共有していきたい。そうすることで顧客と一緒に打開策が探れますし、データを元に話をすることで工期の調整ができ、無駄な残業がなくせるかもしれません。先々は協力企業の生産計画も全て行えるようにしたいとも考えています。Aの案件が遅れているからBの案件をもう一つ入れようか…というような相談もしやすくなり、協力企業から当社への相談もしやすくなるでしょう。お互いにWin-Winの状況にしていければと思います。
御社の経営理念は、「情報革命のその先を。生産革命で人々を幸せに。」ですね。
山口専務：情報がスピーディーに共有できれば、生産体制も素早く整えられ、例えばこれまで100トン製作していたところを120トン作れるようになる。自動化を進めることで売上が上がり、それが給料に還元され、従業員や顧客、さらにその先の施主をも幸せにできる…我々は、そういう世界を目指しています。

代表取締役 山口 豊和
〒321-0404 栃木県宇都宮市芦沼町3510番地1
☎028-674-8070　https://www.yamakou.co.jp
福岡工場は国土交通省大臣認定工場 Hグレード、
関東・東北工場も今年度Hグレード取得予定／生産計画／2022年12月導入